

**ご近所の目が虐待を食い止める**

どこか標語のようだが、そうあって欲しいという強い思い。「世間様に顔向けできないようなことはしてはいけない」という言葉は死語なのだろうか。

**表札が二枚ここにもマスオさん**

「ここにも」を「私も」「アナタも」と比較してみたい。

**浦島の気分で歩くビルの街**

失われた10年などと言われるが、都心の変貌はとてものなことを思えないくらい激しい。あんなに高い建物がものの数年であちらこちに建ってしまう。地方の駅前の変貌も驚くことが多い。浦島の気分とはうまい。

**ファミレスのチビっ子グルメ小煩い**

ファミレスも昔と違い、単なるハンバーグやグリルもの、価格の安さなどでは、お客を満足させられなくなった。今では、妙に素材や食感にうるさい子供もいるだろう。一昔前なら「ファミレスでグルメはどうか」などという意見も出たかもしれない。時代の変遷と今を感じさせる作品。

**難病を告白されてからの恋**

この恋の行方はどうなったのだろうか。どちらかに引け目のある恋は愛に昇華できるのだろうか。

**ビビッと became 出会いで妻にする**

「で」という限定と「する」という意思。そのときの感覚を強く打ち出すか、結婚を決めた意志を強く打ち出すか、そのバランスを考えてみたい。

**フライング気味にタバコに火を点ける**

値上げを見越して買い置きしたものに手を出したのか、まだ一服するには早いのに、もう火を点けたのか。吸いたくて我慢していたので、喫煙所へ向う途中でタバコとライターを手にし、喫煙所に入るか入らないかの内に火を点けてしまう。そんな情景だろうか。

**リリーフが見せ場作って水を掛け**

最高に盛り上がったところでスコーンと打たれてしまう守護神。どんなに防御率が良くても、締めに出てきて逆に締められてしまうこともあるのだ。

**八夕坊は放送禁止かと思う**

日の丸は何かと遠慮がちに報道される。何にも憚らずに使えるのはスポーツの時だけかもしれない。

**三冠夏猛暑真夏日熱帯夜**

中七以降で今年を言い表しているが、上五にご苦労の跡が見える。少し消化不良か。

**迷惑とペットは言えぬヒーリング**

ヒーリングとは癒しを目的とした施術。確かに動物にとっては迷惑かもしれない。おそらく人間よりはストレスは少ないだろうから。

**国勢調査へ生きてる返事する**

今年は五年に一度の国勢調査。郵送やインターネットでの回答が可能になり、以前より手軽になった。生きてる返事とはまさしく今年の世相である。

**独り身になるのも視野に鯛雲**

秋の空、どこまでも続くかのような鯛雲。人生の後半。こういうことも視野に空を眺める。鯛雲が心象を強調している。

**夜遊びを叱ると娘帰らない**

叱らなければ夜遊びを続けるだろうし、叱れば帰ってこない。さてどうしよう、という作者の思案が見て取れる。

**恋一つ今なら蹴りも捨ててもする**

蹴るし、捨てるし、作者の何が「恋」に対してここまでさせるのだろうか。判るようで判らない。判らないようで判る気もする。

**昔から親孝行に銭百貫**

落語「孝行飴」では、あおざし五貫文をお上から貰える。儒教の背景もあって孝行は美德とされた時代。銭百貫となると、相当な額になるが、親の脛かじり、年金不正受給等、今の世相に対するアイロニーとも読める。

**いいよとは口では言うが来て欲しい**

具体的でないところが魅力。下五の想いは、作者と読者で同じでなければならぬことはない。この点について多くの意見をお聞きしたい。

**負けるなと弱い自分に言い聞かせ**

「負けても良い」となると、何もしないことも選択肢に入ってくる。勝たなければいけないという意味ではなく、マイナスな選択肢を減らしていこうという自身に対する激励でもある。

**プライドをハローワークに脱ぎに行く**

下五で意見が分かれるのではないだろうか。「に捨てに行く」「に捨ててくる」「で脱がされる」などと比較してみたい。

**反抗も恋もナイーブ十五歳**

十五歳という設定は、おそらく高校受験が関係しているのだろう。アニメやファンタジーの世界では十四歳という設定が多いし、十六、十七歳はティーンとしてかつては王道だった。十五歳に意外性を感じた。

### つくつくと鳴いたりしない影法師

影法師から法師蝉という音の連想、そこからつくつくとこの掛け合いに至る。

### 父さんにはゆう麺作る秋の風

素麺の後はにゆう麺。気候の変化が急な昨今の風景として面白い。

### ケータイにつながる檻で生きている

いまや携帯電話は、電話というより情報端末と言った方がよい。様々な人、場所と同時に多層的につながっている。現実の対話より、音声やデータでのやり取りの方が多い。逆から見ると、個人が「檻」のなかにいるように見える。

### 梨を挽ぐ新妻の籠軽く持ち

梨は千葉県の名産品。梨畑の風景。籠を軽く持ったのは新妻か、姑か。姑なら新しい家族との温かい風景が浮かんでくる。

### 前線の暖簾くぐればそこは秋

天気図のあのピラピラを暖簾と見立てたのは凄い。しかもその動きと季節の変化を「暖簾をくぐる」という表現にまとめたところが良い。

### 万札を散らす地デジの御催促

「万札を散らす」という表現が大げさにも見えるが、都市部の集合住宅と地方の戸建て住宅では、掛かる費用に差が出ている。テレビの画面も催促するようで目障りである。

### 湯呑みが割れて長生きを考える

形あるものはいずれ壊れる。夫婦茶碗などもよく題材として使われる。長生きして良かったのか、長く生き過ぎたという感嘆なのか、そこは読者に委ねておこう。広がりのある作品。

### ゼロ金利貯蓄ないのに騒ぎたて

確かに、元々ゼロのようなものからゼロにしました、というだけなのに騒ぎすぎです。